

5 自給飼料基盤強化による肉用牛経営体の育成

1 対象

和泊町和牛振興会147戸，知名町畜産振興会52戸，与論町和牛改良組合268戸，分娩監視システム等導入農家50戸，H30～R3の新規就農者7戸

2 課題を取り上げた理由

- (1) 子牛価格低迷に加えて購入飼料費高騰のため，生産牛農家の経営は状況は厳しく，経営基盤確立には，自給粗飼料の生産拡大による購入粗飼料費の低減が求められている。
- (2) 売上金額増加のためには，子牛出荷数増加が必要で，母牛繁殖率，子牛商品性の向上，熱中症予防に務める必要がある。
- (3) 新規就農した若手農家の所得向上のために，規模拡大に向けた支援を行う必要がある。

3 活動内容

- (1) 飼料作物増産確保の推進

ア 飼料作物栽培体系の普及

各町で現地研修を取り入れた飼料作物栽培研修会を開催し，適期収穫の重要性や飼料費節減のための自給飼料生産技術指導，ローズグラスの「褐点病」被害軽減対策指導を行った。

さらに，新たな飼料作物トランスバーラについて基礎講座や現地研修を行い，植付方法の具体的指導を行った。



飼料作物栽培研修会（和泊町）



飼料作物栽培研修会（知名町）



飼料作物栽培研修会（与論町）

併せて，耕畜連携による自給粗飼料確保のため，さとうきびハカマロールサイレージ（以下ハカマロール）を試験的に製造した。



さとうきび収穫時のハカマ



圧縮梱包されたハカマ



ハカマロール

- (2) 飼養管理技術の向上

ア 飼養体系（母牛飼養管理基準）の波及

母牛の栄養改善のため，給与改善指導を行うとともに，自給粗飼料の硝酸態窒素濃度分析を行い，高濃度検出農家には，刈取延期や施肥量改善等指導を行った。

母牛繁殖率向上と分娩事故防止のために，早期離乳，スマート機器の活用助言を行った。

イ 育成暦等の波及と飼養管理技術の向上支援

子牛の飼養管理技術向上のため、熱中症発症農家を関係機関で巡回指導し、通風確保や屋根への断熱塗料塗布等の対策を取るよう助言指導を行った。

また、和泊町、知名町でモデル農家をそれぞれ選定し、毎月1回関係機関で巡回し、飼養管理指導を行った。㊦

(3) 新規就農者への支援

ア 認定就農計画等達成のための飼養管理技術支援

肉用牛基礎講座等の研修会や個別巡回指導により、認定就農計画等の達成に向けた飼養管理技術指導を行った。



モデル農家巡回指導（知名町）



新規就農者巡回指導（知名町）



肉用牛基礎講座（Web 与論町）

4 活動の成果

(1) 飼料作物増産確保の推進

ア 飼料作物栽培体系の普及

ローズグラスの「褐点病」について農家の認識が高まり、代替草種トランスバーラ新規栽培者が増加した。（和泊町2人、知名町3人、与論町4人）

また、トランスバーラ苗供給ほ場を3町それぞれに確保できた。

さらに、ハカマロール生産による自給粗飼料生産拡大に向けた気運が高まってきた。

(2) 飼養管理技術の向上

ア 飼養体系（母牛飼養管理基準）の波及

モデル農家への早期離乳技術導入により、早期受胎につながるるとともに、管内全体の分娩間隔短縮（402日）が実現した。

イ 育成暦等の波及と飼養管理技術の向上支援

熱中症発症農家で暑熱対策が進み、事故数低減につながった。

また、モデル農家では、農家の意識向上が図られ、畜舎の柱に体高基準値を記入するなど、飼養管理の改善が図られた。㊦

なお、管内出荷子牛の平均1日増体重は1.02kg/日であった。

(3) 新規就農者への支援

ア 認定就農計画等達成のための飼養管理技術支援

順調に規模拡大が進み、認定就農計画目標は概ね達成された。



暑熱対策巡回指導（知名町）

5 今後の課題

(1) 飼料作物増産確保の推進

トランスバーラの普及、面積拡大のための苗確保とハカマロールの飼料化推進

(2) 飼養管理技術の向上

母牛繁殖率向上へのさらなる取組と子牛商品性向上

(3) 新規就農者への支援

飼養管理技術向上及び規模拡大のための支援

6 担当した普及職員（○印はチーフ）

○大久保剛，田中慶